

第5回 電気システムセキュリティ特別技術委員会
議事録（案）

日 時 : 平成25年 1月 7日 (月) 15時30分～18時00分

場 所 : 電気学会 第1, 2会議室

出席者 : 大西委員長, 栗原副委員長, 新藤委員 (A 部門長), 徳田委員 (A 部門代表), 大山委員 (B 部門長), 福本 (C 部門長), 松井委員 (C 部門代表), 河村委員 (D 部門長), 中村委員 (D 部門代表), 野田委員 (E 部門代表), 桂幹事 (敬称略), 以上 11 名

配付資料

- 資料5-0 第5回 電気システムセキュリティ特別技術委員会 議事次第
- 資料5-1 第4回 電気システムセキュリティ特別技術委員会 議事録（案）
- 資料5-2 将来の安全・安心社会のための電気エネルギーセキュリティ調査専門委員会（仮）
- 資料5-3 第5回 電気システムセキュリティ特別技術委員会 出席者リスト

議事概要

1 前回議事録の確認

平成24年11月13日に開催された前回委員会の議事録（案）について確認され、承認された。

2 各部門での検討結果の確認

各部門より検討事項について報告がなされた。

2-1 B部門（大山委員）

資料5-2に基づいてB部門での検討案（将来の安全・安心社会のための電気エネルギーセキュリティ調査専門委員会（仮））について紹介された。

調査する項目案

- ・再生可能エネルギー大量導入に向けた技術課題
- ・ならし効果に期待できるのはどこまでか
- ・リスク管理における確率論と確定論
- ・ロバストセキュリティ
- ・供給信頼度レベルとコスト
- ・デマンドレスポンスと需要側対策
- ・配電自動化の効果
- ・エネルギーセキュリティ
- ・技術継承の難しさ

委員構成

委員長候補者 広島大学 餘利野教授

委員構成 大学を中心として電中研, メーカー, 必要に応じて電力会社, エネルギー経済研究所
実施可能項目は人に依存するところが多い。

発表方法

学会誌, 全国大会シンポジウム, リーフレット

- ・(大西委員長)

大きく分けると3つになる。再生可能エネルギーをどれだけ入れたら良いか。セキュリティの面からはベストミックスについてあまり考えられていない。コストをどれだけかければ良いかというのは周知すると良いのではないか。最後の2つは将来に亘って重要となる課題である。

調査も重要だが提案も入っていると良い。
- ・(栗原副委員長)

電力系統の信頼度制御は既に行われている。震災の際にもセキュアであった。供給側だけの信頼度制御に加えて新しい要素を入れるべきである。
- ・(大山委員)

平成26年の全国大会でのシンポジウムで発表ができるようにする。そのための準備を行う調査専門委員会としての位置付けで設立を目指す。
- ・(大西委員長)

電力会社の方に入って頂く可能性はあるか。
- ・(大山委員)

組織として入ってもらうと難しいので、迅速性を優先させたい。
- ・(大西委員長)

調査項目が短期的なものと長期的なものと混ざっているので、委員会を分けて設置することは考えられないか。B部門以外の他部門からも協力できる内容がある。
- ・(福本委員)

C部門としての対応は可能である。

個人的には、一般の方に分かりやすく説明するためにも日本における電力システムのセキュリティの展望を議論できると良いのではないか。
- ・(大西委員長)

各自がどれだけ水や食料と同様に非常用電源を持っているべきか政府レベルで要請するなどの議論はなされていない。現状は電力会社に依存しているが、例えば一週間経ったら必ず復旧するからそれまでは個人責任とするなどを検討すべきである。また、資源面(供給側)と需要側と両面からの議論が必要と考える。

発電機があれば燃料を配ることはできる。
- ・(大山委員)

各家庭が一週間持っていれば十分である。需要と供給に関しては、「デマンドレスポンスと需要側対策」の項目内に入っている。
- ・(栗原副委員長)

委員会名称の「将来の安全・安心社会」というところの切り口が見えにくい。検討項目の中でスポットライトが個別にあたっているように感じる。「ための」を「の」にすべきか。
- ・(福本委員)

計測自動制御学会でも「安全・安心社会」について調査を行ったが、電気は出てきていない。電気学会が電気を切り口に行くことに意義がある。高齢者への情報発信をどうするか考えることも必要と思われる。

- ・(大西委員長)
調査専門委員会を設立することで、電気学会が責任を果たしているということをアピールできる。
「将来の安全・安心社会の電気エネルギーセキュリティ調査専門委員会(仮)」を設置し、平成26年の全国大会でシンポジウムを行えるように進めて頂きたい。
- ・(大山委員)
時期を見ながら公開シンポジウムを開催することも検討したい。
- ・(大西委員長)
電気システムなど調査項目を広げつつ、他部門からも調査専門委員会に参画頂きたい。
- ・(河村委員)
部門横断でやる意義を強調するためにも、対象を小学生・中学生向けなどにして欲しい。電気学会のプレゼンスを上げたい。
- ・(大西委員長)
公開シンポジウムでは分かりやすい発表をして頂きたい。目に見えない電気を分かりやすく伝えたいと考えている。

2-2 A部門(新藤委員)

サイバーセキュリティ(インテンショナル)やEMC(ナチュラル)について貢献が可能である。また、電気技術史に関する委員会も設置されているので、技術継承の面で貢献できる。

- ・(大西委員長)
電気学会125周年ということで、これまでの資産をどのように引き継いでいくかということも提言できると良い。

2-3 C部門(福本委員)

部門としては以下の分野で貢献可能である。

- ・情報セキュリティ
- ・通信セキュリティ

- ・(大西委員長)
情報通信システム関連で糸口はないか検討頂きたい。

2-4 D部門(河村委員)

パワーエレクトロニクスに関して貢献可能である。

- ・(大西委員長)
インフラ関連で検討頂きたい。
- ・(中村委員)
今後の問題や誤った知識を洗い出し、社会にも発信できるようにしたい。分野横断的の委員会なので、混沌とした電力の供給体制が社会に与える影響をそれぞれの部門で知恵を出し合い、(電力の)プロの目で議論できると良いのではないかと。素人とプロの間で議論が必要と考える。
- ・(河村委員)
B部門で先行して委員会を設置して頂き、公開シンポジウムなどの内容を踏まえて検討項目の追加を検討して協力するのが良いのではないかと。

- ・(福本委員)

B 部門から情報セキュリティや産業応用への質問も出てくるだろうと思われる。まずは走り出すのが大事であろう。

2-5 E 部門 (野田委員)

独自での委員会設立は難しいが、横断型の委員会に関して貢献可能である。

3 専門委員会の設置検討および活動内容の確認

今後、下記のように進めることが確認された。

B 部門主導で「将来の安全・安心社会の電気エネルギーセキュリティ調査専門委員会 (仮)」を設置、平成 26 年の全国大会でシンポジウム開催を目指す。

次回開催：第 6 回 委員会：平成 25 年 3 月 27 日 (水) 15:30~17:00 を予定
自動車会館 1F 会議室